

北方建築総合研究所 NEWS LETTER

北方かわらばん

Mail Magazine VOL.81 2016/5/17

「北方かわらばん」は、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所（旧・北海道立北方建築総合研究所）が発行しているメールマガジンです。

今月号のトピックス

第81号の内容はこちらです。

- イベントのお知らせ
 - 平成28年北方建築総合研究所 研究成果報告会の開催（6月10日）
- トピックス
 - 熊本地震被災建築物の応急危険度判定に参加して
- 研究紹介
 - 公営住宅における利用者主体のコモンスペース管理運営手法に関する研究
- ひとつのエッセイ
 - 熊本地震に思うこと
- 最近の研究所の動き
 - 構造計算適合性判定センターから

※※職員募集のお知らせ※※
□ 平成29年度に採用する研究職員（建築・都市工学）を募集しています

平成28年北方建築総合研究所 研究成果報告会の開催

先月号でお知らせしましたとおり、6月10日（金）、北方建築総合研究所研究成果報告会を旭川市大雪クリスタルホールで開催します。

平成27年度終了15課題の研究成果を中心にご報告いたします。

また、「平成28年熊本地震」に関する北総研の調査活動報告をあわせて行うこととしましたので、報告会終了予定時刻を17：40に変更しております。

※プログラム等の詳細は、北総研HPからご覧下さい。

↓↓↓

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/koho/event/index.html>

参加申込は5月27日（金）までとなっておりますので、ぜひお早めにお申込下さいませようご案内いたします。（定員150名、参加無料）

＝＝
トピックス「熊本地震被災建築物の応急危険度判定に参加して」
＝＝

「平成28年熊本地震」では、短期間に「震度7」を記録する大地震が続けて発生し、多くの建築物が被災を受けたことから、全国から判定士が集まり、「被災建築物応急危険度判定」が行われ、私もその一員として判定活動に参加した。

私自身が判定を行った区域は、熊本市内の戸建て住宅の多い地区で、屋根瓦の損傷やブロック塀・石積み塀の崩壊・転倒、外壁モルタルのひび割れ等の被害が多く見られたものの、躯体の損傷は比較的少ない地区であったが、住民の声や家具の散乱状況から、揺れは相当程度大きなものであったと推測され、多くの住民が「このまま住めるのか」といった不安を抱えている状況にあった。

中には、躯体の損傷がほとんど見受けられない住宅であるにもかかわらず、「知り合いから、建て替えないと住めないよと言われたが、そうなんですよ」と半ば諦め顔で尋ねてくる方もいたほどであり、こうしたことから不安の大きさが推し量られた。

また、多くの住民は、躯体に大きな損傷はなく「塀の倒壊のおそれがあり危険」若しくは「瓦の落下のおそれがあり危険」などの場合であっても、赤色の「判定表（危険）」に建物そのものが危険とのイメージを抱き、かえって不安を増大させることも少なくないなど、現在の判定制度そのものが、2次的被害防止のための情報提供が過度に優先し、住民不安の解消には至らない面があることも感じられた。

一部の区域の判定による断片的な感想に過ぎないが、今後、こうした面の検証も重ね、これからの判定活動に活かされることを期待したい。

最後に、一日も早い復興とともに、住民の平穏な日常生活が戻られることを祈念いたします。

（構造判定部 倉増）

＝＝
研究紹介「公営住宅における利用者主体のコモンスペース管理運営手法に関する研究」（平成27～29年度 道受託研究）
＝＝

これまで、公営住宅のコモンスペース（集会所などの共用施設）は、入居者の利用に限られ、地域との交流の場として使われることも多くはありませんでした。一方で、地域コミュニティ活動を行うグループの中には、その活動場所探しに苦慮している実態もみられます。公営住宅のコモンスペースは、その活動場所として最適な空間といえます。

そこで本研究では、公営住宅のコモンスペースを自治会と地域住民が共同で利用することにより、自治会活動・地域の町内会活動ともに活性化させ、コモンスペースがより有効に利用されることを目的としています。具体的には、公営住宅入居予定者と地域住民が、公営住宅の計画に関わることで、入居者と地域住民の意向を設計に反映させ、竣工後も積極的に管理運営に関わる仕組みづくりを検討しています。

現在、道内で計画されている公営住宅をモデルに実施したワークショップでは、（1）コモンスペースの利用イメージを共有し、（2）そこに必要なものと必要ないもの、その優先順位、（3）自分たちで維持管理できるものを整理したうえで、（4）整備してほしいものとその配置について、入居予定者と地域住民で話し合いました。

ワークショップで出された意見は、具体的な利用イメージに基づき提案されたものであり、このプロセスを経たことで実際の利用ニーズに即した空間設計が実現しました。竣工後も地域住民と入居者の協働による活用が十分期待できます。

今後は、利用料の負担や利用ルールづくりについて検討を続けるとともに、他の公営住宅にも活用できるような仕組みを提案する予定です。

(居住・防災G 馬場)

=====
ひとことエッセイ「熊本地震に思うこと」
=====

熊本地震では甚大な被害が発生しました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族には謹んでお悔やみ申し上げます。また、被災された方々や関係者の方々には心よりお見舞い申し上げます。

北総研では、4月後半に応急危険度判定士を7名派遣したところです。今回の地震は前震、本震に加えて現在も余震が続いており、被災地の方々の恐怖と心労は大変大きなものであると思われまます。派遣した者の話を聞くと住民の方々の不安を少しでも和らげ、速やかな復旧復興につなげるためにも、こうした活動の意義は大きいと思いました。6月10日に旭川市の大雪クリスタルホールで開催する当所の「研究成果報告会」では、判定活動の様子や被害状況等について報告を行いますので、興味のある方は是非ともお越しください。

熊本付近は地震が多いという印象はあまりありませんでしたが、「地震はいつどこで発生してもおかしくない」ということを改めて心に留め、自分の身の周りや家族の防災対策について確認しました。防災意識を高く維持することは難しいことですが、こうした機会に確認することはとても大切だと感じています。

当所では、防災関係の研究や取組も行っており、先日はNHKで当所と室蘭工業大学、NPO法人住宅外装テクニカルセンターの共同研究で開発した耐震改修と断熱改修を同時に実施する工法が紹介されました。

今後も、北海道にある研究機関として、道内での震災被害を少しでも減らすためにどういった取組を行っていくべきなのか、考えを深めてまいりたいと改めて感じているところです。

(企画調整部 高橋)

=====
最近の研究所の動き
=====

■【構造計算適合性判定センターから】

□ 4月の判定業務

受付 14件 (14棟)
結果通知 10件 (10棟)

4月の判定依頼は、共同住宅2件、事務所・店舗4件、倉庫・工場7件、その他1件でした。

総判定日数（受付から結果通知までの期間）の平均日数は21.8日（前月比+5日程度）、実判定日数（設計者の修正期間を除く実際の審査期間）の平均日数は8.6日（前月比+2日程度）となり、年度初めから着工を予定している物件が増加するのに伴い、それぞれ判定に係る日数も増えてきている傾向となっています。また図書付き事前相談を含めた受付件数は20件であり、昨年同月の18件を若干上回る状況となっています。

4月14日を発端としたいいわゆる「平成28年熊本地震」ですが、4月14日21時26分の地震がマグニチュード6.5、最大加速度1580ガルを記録し、4月16日1時25分の地震がマグニチュード7.3、最大加速度は1360ガルを記録したと報告されております。活断層型地震においてマグニチュード6.5を記録した後、その地震を上回る揺れを記録するケースは明治18年以降初めてと言われており、本地震の特異性を示しています。また一連の地震活動において震度7を2度記録することも初めてのケースであると言われております。

消防庁の発表による今回の地震での住宅の被害は全壊が約2500棟、半壊が約3800棟、一部損壊が23000棟弱と報道されており、なお被害分類の想定が未確定の住宅が31000棟強残っているとされています。また5市町の本庁舎が継続使用困難となり、庁舎機能の移転を余儀なくされるなど、各住宅レベルから防災拠点に至るまで所要の耐震性能を確保するための取り組みは不可欠であると言えます。

（構造判定G 本間）

平成29年度に採用する研究職員を募集しています(建築・都市工学)

■北方建築総合研究所では「建築・都市工学」の分野で3名の研究職員を採用予定です。ご関心のある方、ぜひ、北総研までお問い合わせ下さい。

- 受付期限 平成28年6月14日（火）
- 第1次試験日 平成28年7月 3日（日）
- お問合せ先 北方建築総合研究所 総務課(0166-66-4211)

HPに詳しい募集要項を掲載しております。♪
↓↓↓

【北総研HP】

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/koho/pdf/29nenndoshinnkiboshuu.pdf>

【道総研HP】

<http://www.hro.or.jp/hro/recruit/recruit/index.html>

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場
ページ(4)

合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。
メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_n

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_q

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：（地独）北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所